

静岡県センター配信型遠隔教育ネットワーク

I. 研究開発の背景と目的

静岡県では、中山間地域の小規模校において、生徒が多様な生徒と出会い、切磋琢磨する機会や、異なる価値観に触れながら学ぶ機会が限定的になりやすい。また、教員数が少ないことにより、生徒の学習ニーズに応じた選択科目の開設や習熟度別指導が難しいという課題がある。こうした課題に対応し、生徒の学びの機会を保障するとともに、学びの質を向上を図るため、ICTを活用した「センター配信型遠隔教育」を推進する。

【小規模校の課題】

- ・一部選択科目の開講が難しい
- ・学び合いの機会に限られる
- ・教員配置・専門性に課題

【目的】 静岡県遠隔授業配信センターを中心として、次の3点を実現する。

- ① 小規模校における、生徒の興味・関心や進路希望に応じた学びの機会の提供
- ② 学校の垣根を越えて、多様な生徒と学び合う協働的な学びの実現
- ③ 遠隔授業デザインの研究と、全県の学びの質向上につながる持続可能な運営体制の構築
あわせて、通信教育に係る調査・研究を進め、不登校・病気療養中の生徒に対する柔軟な学習機会保障の可能性を明らかにする。

II. 実施体制や取組状況、今年の事例

(1) 遠隔授業の本格実施

令和7年度は、令和6年度のニーズ調査を踏まえ「物理」及び「物理基礎」を対象科目とし、松崎高校、伊豆総合高校土肥分校、浜松湖北高校佐久間分校を受信校として遠隔授業（教育課程内）を実施した。

静岡県教育委員会
(運営委員会)

評価・助言

静岡県遠隔授業
配信センター



遠隔授業の実施・研究

構成校（受信校）



学校間連携

静岡中央高等学校
通信制の課程



調査研究・試行

(2) 授業づくり研究の推進

ワーキンググループ会議や検討委員会を通して、遠隔授業の成果と課題、授業づくりの方向性、教員配置や研究体制、令和8年度以降の拡大スケジュールを整理した。あわせて、遠隔授業配信センターが授業配信に加え、授業改善の研究や探究的な学びの推進を担い、新たな学びを展開する中核拠点となることが確認された。

(3) 通信教育に係る調査研究

静岡中央高校通信制課程を中心に、遠隔スクーリングの試行、レポート提出や学習記録のICT化の検討、学校の垣根を超えた学び合いの場づくりの継続を進めた。また、不登校・病気療養中の生徒に対する通信教育の在り方について、各校の状況調査と課題整理を進めた。

(4) 令和8年度以降の基本計画の策定

令和8年度は理科・数学の2教科4科目、対象校7校程度への拡大を想定し、令和9年度には6教科での本格実施を見据える方向性を整理した。あわせて、配信教員の複数配置、配信ブース増設、受信校の時程・教育課程・教科書・時間割調整、研究成果物の蓄積など、段階的な拡大に必要な条件を明確化した。

III. 今年の成果と今後の課題

内容	成果	課題
遠隔授業	多様な選択科目と専門性の高い授業の提供を実現。学校を越えた学び合いの可能性を模索	質問のしやすさ、対話的活動の充実、実験・演習の工夫など授業改善・研究
教育課程の充実	「物理」「物理基礎」等の配信により、学びの選択肢を拡充	配信教科・対象校拡大に伴う時程、教育課程、教科書等の調整
通信教育・ICT活用	遠隔スクーリングやICT活用により、柔軟な学習機会保障の方向性を整理	制度設計の具体化と、実績データの蓄積・効果検証
持続的発展	基本計画策定により、拡大方針と体制整備の方向性を明確化	チーム体制、勤務管理、成果還元と評価改善の循環確立

静岡県センター配信型遠隔教育ネットワーク

小規模校の学びの機会を拡充するセンター配信型遠隔教育

— 専門性の高い授業と、学校を越えて学び合う機会の創出 —

静岡県では、静岡県遠隔授業配信センターを中心に、令和7年度から単位認定を伴う遠隔授業を本格実施した。小規模校における、生徒の興味・関心や進路希望に応じた学びの機会の充実を図った。

遠隔授業を単なる代替手段ではなく、**学びの質の向上につながる新たな学びの基盤**として位置付け、学校や地域の枠を越えて学び合う機会の創出を目指している。

遠隔授業の概要

【配信拠点】静岡県遠隔授業配信センター

【主な配信科目】物理、物理基礎

【主な受信校】松崎高校、伊豆総合高校土肥分校、浜松湖北高校佐久間分校

【ねらい】多様な学びの選択肢の確保と、専門性の高い授業の提供
学校の垣根を越えた学び合いの実現

遠隔授業実施の様子



(写真1)
遠隔授業配信センターから専門教員が授業を配信

授業の工夫



① 専門教員による授業配信

小規模校でも、専門性の高い授業を受けられる環境を整備した

② 共有と振り返り支援

授業資料をオンラインで提示し、生徒がいつでも振り返ることができるようにした。

③ 学び合いを意識した授業づくり

学校の垣根を越え、多様な生徒と共に学ぶ機会の創出を目指して授業改善を進めた。

動画教材（実験動画や解説動画等）活用し、教師の説明を精選することで、生徒が主体的・対話的に学ぶ場面の充実を図った。

【生徒の声】

- ・ Google Classroomに授業資料が提示されていて、いつでも振り返ることができるし、自分のペースで学習内容を確認できる
- ・ 専門の先生に詳しく教えてもらえる



- ・ 授業中に質問をするタイミングに迷うことがある
- ・ 通常の授業よりも提出課題が多くなるように感じる
- ・ 遠隔授業ならではのやりとりの難しさがある



(写真2)
受信教室の様子



(写真3)
対面授業では実験を中心とした授業を実施

令和7年度は、遠隔授業の本格実施を通して、小規模校における学びの機会保障と専門性の高い授業の提供を具体化することができた。今後は、対話的な学びや学び合いをさらに充実させ、全県の学びの質向上につながる取組へ発展させていく。

静岡県センター配信型遠隔教育ネットワーク

ICTを活用した通信教育の試行により、柔軟な学習機会の保障を検証

— 遠隔スクーリングとオンラインを活用した学習支援の充実に向けて —

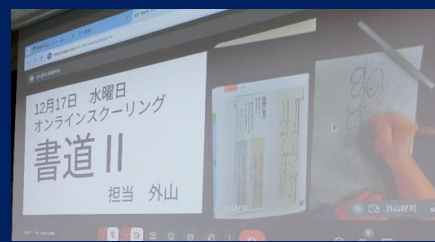
静岡県では、静岡中央高校通信制課程を中心に、通信教育の在り方に関する調査研究を進めている。令和7年度は、「書道」における遠隔スクーリングの試行、デジタルレポートや学習記録のICT化の検討、学校の垣根を超えた学び合いの取組を通して、柔軟な学習機会保障の可能性を検証した。

通信教育実施の様子（静岡県立静岡中央高等学校通信制の課程）

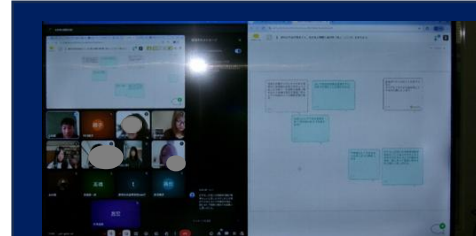
【授業づくり】「書道」の遠隔スクーリングでは、書画カメラや会議用カメラ、Google Classroom、Google Meet 等を活用し、教員の実演や板書をリアルタイムで共有できる環境を整えた。生徒は、自宅等の学習環境から受講し、課題制作や提出に取り組んだ。



（写真1）
科目の特性に合わせて機材を活用し、実技科目も実施



（写真2）
授業配信：教員の手元や板書をリアルタイムで共有



（写真3）
ICTを活用して意見を共有し、協働的な学びも実現

【本取組で確認できたこと】

- ・実技科目でも、書画カメラやGoogle Meet等を活用することで、教員の実演や板書を共有しながら学習を進めることができた。
- ・Google Classroomを活用した課題提出や学習記録のICT化により、自宅等からでも学習に参加しやすい環境づくりが進んだ。
- ・通信教育の可能性が具体化した一方で、細かな表現の伝達、質問しやすさ、評価方法や制度設計の整理が今後の課題として見えてきた。

【オンラインスクーリング】

- ・自宅等から参加でき、学びを継続しやすかった。
- ・画面越しでも実技科目の学習に取り組むことができた。
- ・ICTを活用することで、他の生徒と協働的に学ぶことができた



生徒の表れ

【レポート提出のオンライン化】

- ・自宅で行ったレポートをすぐに提出できる
- ・郵送に比べて、教師からのフィードバックが早く、学習意欲が向上
- ・レポート提出率の向上

取組の工夫

- ① 実技科目に対応した配信環境
書画カメラや複数の端末を活用し、教員の実演や板書を分かりやすく共有した。
- ② ICTを活用した課題提出
Google Classroom を用いて、課題レポートの提出を支援した。
- ③ 自宅等から参加できる柔軟な学び
自宅等から受講できる環境を整え、学習機会の確保を図った。
- ④ 制度化に向けた継続的検討
「通信制高校の在り方検討会」を通して、遠隔スクーリング、デジタルレポート、学習記録のICT化等を継続的に検討した

今後の展望

令和7年度は、遠隔スクーリングの研究・試行やICTを活用した学習支援を通して、通信教育の可能性と課題を具体的に整理した。今後は、得た知見を生かしながら、遠隔スクーリング、デジタルレポート、学習記録のICT化等について継続的に検討を進める。あわせて、不登校・病気療養中の生徒を含む多様な学習ニーズに対応できるよう、制度設計と実証の両面から、柔軟な学習機会保障のモデル化を進めていく。